

寺何甚不脫乃脫之言宛十具直欲米五斗如乞而贖勸請法師令呪願放之於海略

〔日本靈異記攷證中〕蠻未詳北氏曰恐卽蠻字之訛艸書字康豪國音相近猶鑰字作鑑也前田氏

〔古事談神社佛寺〕昔傳教大師叡山建立之時爲立中堂被引地之間自地中蠻之カラヲ多被引出云云大師奇而被尋申比良明神云云答云件事吾之世事ニアラズ古人語侍シハ此所依爲可流布圓宗法文之地諸海神等聚會テ此山ヲ築タルヨシ語侍シカバ海底ノ蠻ノカラ等出シ侍歟件事能久罷成事也

〔千載和歌集物名〕かきのから

柿葉は紅葉もせじを神がきのから紅に見えわたるかな

〔本草和名〕寄居蟲魚十九本草云寄居子和名加美奈

〔倭名類聚抄龜貝〕寄居蟲魚十九今俗譌呼駕宇奈略中崔氏所集諸物多云某子本草和名引食經亦當寄居

〔箋注倭名類聚抄龜貝〕崔氏食經文非本草也藝文類聚引異物志云寄居之蟲如螺而有脚形如蜘蛛本無殼入空螺殼中戴以行觸之縮足如螺閉戶也火炙之乃出走始知其寄居也郝曰今驗寄居形狀大小不一其蟲俱如蜘蛛而有螯如蟹戴殼而遊亦能走出殼如小螺形色瑰異閩中海錯疏云寄居海上枯瀛殼存者寄生其中負殼而走形如蟹四足兩螯大如榆莢其味若蝦得之者不煩剔出曳之即出以肉不附也炒食味亦脆矣

〔日本釋名中〕寄居蟲カミナかにみな也其形かにの如くにしてみなのからの内にやどる物也又かは借也みなのからをかりてやどるもの也俗にがうな共やどかり共云

〔物類稱呼二動物〕寄居蟲がうな一名やどかり伊豆及駿河にていそものと云上總にてがなづうといふ肥前にてほうざい蟹といふ和名かみな